

学校教育に読み聞かせを

—言葉に魂が会おうとき—

西 村 る り

はじめに

執筆者は、21年度、熊本市の学校図書館主任会で実践発表を行った。その会の班別協議のテーマは「子どもたちの読書活動推進のための取り組みと、そのための学校図書館司書業務補助員との連携のあり方」であった。熊本市は学校図書館の先進地域として、全国に知られている。蔵書の整備、司書業務補助員配置、図書資料物流・ネットワーク構築と次々に学校図書館充実のための施策が講じられている。おかげで本市では、充実した学校図書館運営が行われている。また、学校支援ボランティアという制度があり、地域の人材を学校教育に積極的に活用している。さらに、幼稚園・保育園・小学校・中学校の幼・保、小、中連携の日も設定され、中学校区内の交流も盛んである。

本研究は前述の熊本市の教育環境を活用し、人の身体から発せられる「言葉の力」によって、生徒たちの豊かな心を伸ばしていくために行った実践をまとめたものである。具体的には、学校図書館の読書センター機能を活用し、昼休みのおはなし会、国語の授業のおはなし会や読書指導、総合的な学習の時間の小学校訪問おはなし会（注：おはなし会では読み聞かせやストーリーテリング〈物語を覚えた人が語って聞かせる〉を行う。）などの活動である。

第1章 研究の概要

1 研究主題

生徒たちの豊かな心を伸ばすには、どうすればよいか。
—学校図書館活用と地域との交流を目指して—

2 主題設定の理由

教育問題が山積する現代の状況を打開するには、生徒たちが本来持っている、豊かな心を引き出し、さらに伸ばしていくことが必要だと考え、本研究の主題を「生徒たちの豊かな心を伸ばすには、どうすればよいか。」と設定した。この主題の根底には、人の身体から発せられる「言葉」こそが、人を育てる力を持つのではないかという、国語教師としての執筆者の実感が存在する。さらに、主題に迫るため、学校図書館を活用し、地域と

交流することが重要だと考え、「学校図書館活用と地域との交流を目指して」を副題とした。学校図書館の活用、とくに読書活動は注目されている。朝の一斉読書は、全国的に広がりを見せており、熊本県内、とくに熊本市内のほとんどの学校が、朝の一斉読書を行っている。これは、積極的に本を読む子どもを育てようという気運が高まっている証拠である。読書は、子どもたちの心の成長に欠かせないと考えられ、国語科でも読書指導の大切さは見直されている。

この機運は国の施策にも、色濃く滲んでいる。平成13年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、平成17年には「文字・文化振興法」が施行された。これら読書活動推進の動きは、平成20年3月に告示された新学習指導要領に反映している。その内容は、今まで以上に学校図書館を活用した学習活動や読書活動の充実に関心をもち、力を入れていく必要があると記されている。新学習指導要領（中学校）の総則の第4指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項の(11)には「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。」とある。国語科改訂の要点の(6)には「読書の指導については目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視して改善を図っている。また日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶことができるように指導することも重視している。」とある。さらに、各学年における「C読むこと」の目標にも第1学年「目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえさせる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。」第2学年「目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。」第3学年「目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。」とある。これらの記述は、これからの高度情報化社会に生きていく生徒たちにとって、読書体験が必要不可欠なものとなっていくと指摘している。つまり、それは、読書指導の重要性が高まっていくということである。実体験がないことも、読書することによって追体験できる。別れの悲しみを実体験できなくても、本を読むことによって想像し、追体験することはできる。言葉は、生徒たちの想像力を刺激し、それは豊かな心をはぐくむことにつながっていくのではなからうか。

また、総則の第4指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項の(14)には「学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や

地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。また、中学校間や小学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒の交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること。」とある。これは、学校だけで生徒を育てるのではなく、地域の教育力を活用して生徒を育てることの重要性を示している。

自分の身の回りにいる人々と直に言葉を交わし、交流することこそ教育の原点である。「生徒の豊かな心」を伸ばすためには、地域の人材と連携し、読書のすばらしさを知らせ、地域の小学校、幼稚園、保育園などと交流することが今後ますます必要になってくるだろう。

以上のように考え、本研究主題を設定した。

3 研究の仮説

学校図書館を活用し、地域との交流を意識した活動を行えば、生徒たちの豊かな心を伸ばすことができる。

4 研究の対象

研究の対象は、熊本市立京陵中学校の生徒である。学校図書館活動に関するものは、全校生徒が対象である。国語の教科に関するものは、3年生5学級の生徒である。総合的な学習の時間に関するものは、3年生の総合的な学習の時間で、「地域理解」を課題とした、「人に優しい町」コースを選択した生徒16人である。熊本市立京陵中学校は、全校生徒数774人、そのうち3年生277人、3年の学級数7、総学級数23（通常学級21、特別支援学級2）の大規模校である。京陵中学校に入学してくる小学校区は壺川小学校、高平台小学校、池田小学校、西里小学校の4校である。本研究では、このなかの高平台小学校の3年生と交流した。

京陵中学校は昭和22年に創立された伝統校であり、学校行事等に協力的な地域の方々も多い。熊本大学教育学部附属小学校と附属中学校に隣接しており、文教地区として知られている。部活動も盛んで、運動部活動、文化系部活動を合わせると、加入率は8割を超えている。スポーツ面での活躍だけでなく、様々な文化系のコンクールで入賞、入選する生徒が多く、活気に満ちた学校であると言えよう。学力検査の結果から、学力は全国平均より高い数値を示しており、なかには国語の能力が高く感受性に富んだ生徒がいる。

5 読書センターとしての学校図書館を活用した取り組みの概要

次に、読書センターとしての学校図書館を活用した取り組みの概要を掲載した。ただし、「総合的な学習の時間の中で」の7月と9月に小学校と保育園へ訪問する計画だったが、新型インフルエンザの流行等、諸般の事

情で行くことができなかつた。なお、本研究は、21年12月までのまとめである。

表 1

月	学校図書館活動の中で	国語の教科の中で	総合的な学習の時間の中で
4月		①教師による絵本読み聞かせ	
5月		(漢和辞典・国語辞典等使った調べ学習)	
6月		②詩と俳句の創作指導・作文指導に関連してブックトーク	③オリエンテーションおはなし会鑑賞読み聞かせ練習
7月	④学校支援ボランティアによるおはなし会	(漢和辞典・国語辞典等使った調べ学習) ⑥読書の時間設定	⑤おはなし会鑑賞読み聞かせ練習読み聞かせ発表《小学校訪問おはなし会》
9月			⑦おはなし会鑑賞読み聞かせ練習(ビデオ撮影と視聴)読み聞かせ発表《保育園訪問おはなし会》
10月	⑧学校支援ボランティアによるおはなし会	⑨学校支援ボランティアによるおはなし会	⑩おはなし会鑑賞読み聞かせ練習読み聞かせ発表
11月		(漢和辞典・国語辞典等使った調べ学習) ⑫読書の時間設定	⑪おはなし会鑑賞読み聞かせ練習読み聞かせ発表小学校訪問おはなし会
12月	⑬学校支援ボランティアによるおはなし会	⑭読書の時間の設定 ⑮教師による読み聞かせ ⑯学校支援ボランティアによるおはなし会 ⑰生徒と学校支援ボランティアによるおはなし会	⑱小学生への手紙 ⑲学校支援ボランティアへの手紙

第2章 実践研究

1 実践1

(1) 学校図書館活動の中で

前章「5 読書センターとしての学校図書館を活用した取り組みの概要」の表1の④⑧⑬に示したのが、本実践に関わる部分である。司書教諭である執筆者と司書業務補助員と連携して、「京陵中学校図書館おはなし会」を行うことができた。(以下、司書業務補助員を司書補と称する。京陵中

学校学校図書館おはなし会は図書館おはなし会と記す。）

運営、企画、広報等は協働で行う。司書補の主な役割は、ポスター作成、図書館内の準備、整理券配布、生徒受付、感想用紙配布である。司書教諭の役割は、職員会議提案、学校支援ボランティアへの依頼、連絡調整、生徒への指導、生徒への感想依頼である。

学校支援ボランティアは長年ストーリーテリングや読み聞かせて活躍しておられる志岐有子さんとそのグループに依頼し、登録を行った。図書館おはなし会は、昼休みに行うため、正味20分ほどであった。新型インフルエンザの流行などで、実行できなかった計画があった。全校生徒に、給食の時間の放送で、図書委員長が参加を呼びかけた。あまり、大勢になるとおはなし会ができなくなるため、50人以下になるように、整理券を配布した。以下のようなプログラムで、学校図書館を開催場所として行った。

平成21年7月16日 昼休み	
④図書館おはなし会プログラム	
話し手) 学校支援ボランティア志岐 有子さん・他1人	
○ろうそくのうた	<指遊び>
○水	<写真と文 読み聞かせ>
○かにかにこそこそ	<ストーリーテリング>
○あつさのせい	<絵本の読み聞かせ>
○なっとうねーばねば	<体遊び>
平成21年10月15日昼休み	
⑧図書館おはなし会プログラム	
話し手) 学校支援ボランティア志岐 有子さん・他1人	
○ろうそくのうた	<指遊び>
○妖精のぬり薬 (イギリス・アイルランドのお話)	<ストーリーテリング>
○くんちゃんのだいいりょこう	<絵本の読み聞かせ>
平成21年12月15日 昼休み	
⑬図書館おはなし会プログラム	
話し手) 学校支援ボランティア 志岐 有子さん	
○ろうそくのうた	<指遊び>
○ばんさらや (熊本の昔話)	<絵本の読み聞かせ>
○みるなのくら	<絵本の読み聞かせ>

(2) 図書館おはなし会感想

④の感想

- おもしろかった本（心に残ったおはなし）＝カニのお話
小学校で読むようなお話だったけど、やさしく話していてとても聞きやすかった。最後になつとうの運動やったけど、おもしろくて元気がでた。
- おもしろかった本（心に残ったおはなし）＝みず
いろいろな水があっておもしろかったです。男の子が裸で水遊びしているところがあったけど、思い出せば、僕もそういう頃があったなあーと思います。
- おもしろかった本（心に残ったおはなし）＝あつさのせい？
本を読んでくださる人が、その登場人物の一人一人に言葉によって、怒ったり、喜んでいる感情を使い分けて話してくださったのが、ストーリーの世界に入っていくやすかったです。

⑧の感想

- おもしろかった本（心に残ったおはなし）＝ようせいのぬりぐすり
おばあさんの目を見えなくしてしまったので、かわいそうだなと思いました。次、また読み聞かせて、おはなし会がありましたら、HAPPY ENDのおはなしをお願いします！！今日はありがとうございました。
- おもしろかった本（心に残ったおはなし）＝みるなのくら
全部とってもおもしろくて、おもわず聞き入ってしまいました。プロの人が話されると、こんなにもすばらしく聞こえるのかと感動しました。

⑬の感想

- おもしろかった本（心に残ったおはなし）＝ぼんさらや
どちらのおはなしもとてもおもしろかったのですが、私は「ぼんさらや」の方がおもしろいと思いました。「ぼんさらや」の登場人物はとても生き生きしているように聞こえました。お母さんのおふじを手放したくないという気持ちや殿様のおふじが欲しいという気持ちが伝わって、分かりやすくておもしろく感じました。でも、一番おもしろく感じたのは、おふじの聡明さを表している場面で、最後に歌われた「ふじふじと」の部分で、いつか先生のように上手に読めるようになりたいと思いました。

このほか、「たのしかった」「おもしろかった」「また聞きたい」などという喜んでいる感想が多数あった。感想の中で多い言葉は「なつかしかった」というものであり、自分の経験を思い出している様子が感じられた。

2 実践2

(1) 国語の教科の中で

前章「5 読書センターとしての学校図書館を活用した取り組みの概要」の表1の①②⑥⑨⑫⑭⑮⑯⑰に示したのが、本実践に関わる部分である。

<p>平成21年4月～5月（3年生国語の時間） 読み手）西村</p> <p>①絵本の読み聞かせ「たいせつなこと」 光村3年詩教材「わたしを東ねないで」を学習し、最後に「たいせつなこと」を読み聞かせする。</p>
<p>平成21年6月（3年生国語の時間） 話し手）西村</p> <p>②詩と俳句の創作指導・作文指導 井上ひさし著「井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室」（新潮文庫）をもとに詩、俳句、作文の指導とブックトークをする。</p>
<p>平成21年10月15日（3年国語の時間）</p> <p>⑨国語おはなし会プログラム 話し手）学校支援ボランティア 志岐 有子さん・他1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ろうそくのうた <指遊び> ○くんちゃんのだいりょこう <絵本の読聞かせ> ○こすずめの冒険 <ストーリーテリング> ○ゆかいなかえる <ストーリーテリング> ○いぐさのかさ <ストーリーテリング>
<p>平成21年12月（3年生国語の時間） 読み手）西村</p> <p>⑮絵本の読み聞かせ「花さき山」</p>
<p>平成21年12月21日（3年生国語の授業）</p> <p>⑯国語おはなし会プログラム 話し手）学校支援ボランティア 志岐 有子さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ろうそくのうた <指遊び> ○くんちゃんのだいりょこう <絵本の読聞かせ> ○ぼんさらや（熊本の昔話） <ストーリーテリング> ○12のつきのおくりもの <ストーリーテリング> ○なっとうねーばねば <体遊び> ○ゆきんこ <ストーリーテリング> ○おひさまあはは <絵本の読聞かせ> ○おはなし「耳で聞くより、心で書くことは大切」

平成21年12月22日（3年生国語の授業）

⑰国語おはなし会プログラム

話し手) 学校支援ボランティア 志岐 有子さん

生徒2人

- | | |
|----------------|--------------|
| ○ろうそくのうた | <指遊び> |
| ○くんちゃんのだいりょこう | <読み聞かせ> |
| ○12のつきのおくりもの | <ストーリーテリング> |
| ○おおきくなるっていうことは | <生徒による読み聞かせ> |
| ○どうながのプレツェル | <生徒による読み聞かせ> |
| ○ぼんさらや（熊本の昔話） | <ストーリーテリング> |

⑰の感想

- 先生のお話もおもしろかったけど、生徒2人の話もたのしかったです。また、みんな静かにきけていたし、よいおはなし会ができたと思います。今日のように、話す人に集中して、きく側も授業に参加できるようにしたいです。3学期の授業でも、今日のように相手のことを考えて、思いやりをもってがんばりたいです。
- 私は正直最初は「なんだかたいくつだなー」と思っていました。おはなしをきくなんて子供っぽいし、もうそんな年齢でもないと考えていました。しかし、おはなしをしてくださる方が、おはなしを暗記していること、絵本の内容が子供のころより理解できることに気付き、「すごい」と共に感動しました。子供のころは、絵本を読んだり、読書への意欲がありましたが、今はもうほとんど読書していない…。ということにも気付きました。これを機に、受験が終わったら、また読書がしたいなと思います。
- 読み聞かせは、本当になつかしく、久しぶりでとても楽しかったです。ろうそくの火を消す最初のはじまりのあいさつのような動きでは、話が始まる準備ができて、話がはじまったときスーと心に入ってくる感じがしましたが、話のときのしゃべり方、間のおきかたなどで、物語の感じが変わるんだなあと思いました。すごく落ち着いた時間を過ごせました。楽しかったです。
- 小学校以来のおはなし会だったと思います。志岐先生は、すごいなあと思いました。それは、物語を覚えてはなしされていたからです。また、話の仕方にも、工夫されていて、聞きやすかったです。「森は生きている」という物語は、12月たちは、悪いことをしたときは、ちゃんとしかえしのようなものをして、ちゃんと許可を得て、行動する人には、優しくしていて、きちんとしている人だなあと思いまし

た。悪役として、2つのお話で、お母さんができていました。Aさんの「おおきくなるっていうことや」とBさんの「どうながのプレツツェル」も、読み方が上手だったし、おもしろかったです。

- おはなし会は久しぶりに聞いたので、気持ちがおだやかになりました。最初の物語では、12の月のせいがとってもやさしい女の子を助けてあげてとても親切な人たちだなあと思いました。志岐さんはとても読み方がおじょうずで聞きやすかったです。3-2の生徒のAさんとBさんもうまくぜひまた聞きたいなあと思いました。
- 久しぶりに本を読んでもらった気がします。幼いころは毎日のように母に読んでもらっていました。「森は生きている」という話のもとになっている「12の月たち」という本が家にあります。「12の月たち」とは少しちがっていて、おもしろかったです。Aさんが読んでくれた「おおきくなるっていうことは」という本は不思議な感じで楽しかったです。また、絵の一つ一つがかわいくて、見ていて、わくわくしました。熊本のお話は、どこかにつかしい感じがしました。お藤が幸せになれてよかったです。これから、いろんな絵本を読めるといいなあと思います。

おはなしの世界に入り、登場人物の幸福を喜んだり、不幸を悲しんだりした感想が多かった。また、読書がしたいという感想も多く見られ、感動していることがわかった。

3 実践3

(1) 1学期の総合的な学習の時間の中で

前章「5 読書センターとしての学校図書館を活用した取り組みの概要」の表1の③⑤⑦⑩⑪⑱⑲に示したのが、本実践に関わる部分である。

司書教諭（総合の担当教諭）の役割は、企画、学校支援ボランティアへの依頼、連絡調整、生徒への指導、ワークシート準備、学習内容計画、自己評価シート作成などである。司書補の主な役割は、必要な図書の購入準備、貸し出す絵本等の準備、総合的な学習の時間に必要な図書の貸し出しである。協働する内容は計画、相談である。

3年生の総合的な学習の時間のテーマは、「人・地域に対して、考える、はたらきかける、自己とつなげる」というものであった。その中の課題名「地域理解」で、「人に優しい町」コースが、本研究の活動を行った。具体的な学習内容は「読み聞かせを通して地域の人々と交流しよう」であり、このコースを学習したいという3年生16人が集まった。以下のようなプログラムで、学校図書館を活用しながら、主に多目的室で活動を行った。

総合的な学習の時間はほとんど2時間構成なので、1時間目にはおはなし会を聞く体験をし、2時間目に読み聞かせを生徒たち自身が行えるように、練習や準備をしていった。おはなし会への協力は、既述の学校支援ボランティアの志岐有子さんとそのグループに依頼した。

総合的な学習の時間すべてに志岐さんとそのグループに来ていただいたのではないが、総時数の3分の2程度の時間来ていただいた。次に、表1の③、⑤のオリエンテーションを兼ねた授業のプログラムを載せる。

平成21年6月24日	
③総合おはなし会プログラム	
話し手) 学校支援ボランティア 志岐 有子さん・他1人	
○ろうそくのうた	<指遊び>
○めのまどあけろ谷川俊太郎(詩)	<詩の朗読>
○月人石	<ストーリーテリング>
○魔法のこぼれ	<ストーリーテリング>
○いぐさのかき	<ストーリーテリング>
○よあけ	<絵本の読み聞かせ>
○わたしとあそんで	<絵本の読み聞かせ>
○読み聞かせについて	<講話>
○おつきさまこんばんは	<ストーリーテリング>
平成21年7月2日	
⑤総合おはなし会プログラム	
○ろうそくのうた	<指遊び>
○木	<絵本の読み聞かせ>
○そばがらじさまとまめじさま	<ストーリーテリング>
○赤鬼エティーン	<ストーリーテリング>
○ぼんさらや	<ストーリーテリング>
○水	<写真と文読み聞かせ>
○星の銀貨	<ストーリーテリング>

上と下線を付した「読み聞かせについて」という読み聞かせとはどういうものであり、どうすればよいか講話の聞き書きを次に載せる。

読み聞かせとは、読み手の「読みますよ」、聞き手の「聞かせてね」を一つにした言葉。この本を媒体として、人と人が出会うということ。読み聞かせは、読み手が前に出ないようにする。読み手がじゃまにならないようにする。

本を読み手の顔から離して、何も無いところで本を開いて聞かせる。一冊の本を読み手と聞き手が楽しむ行為。読み聞かせの方法と行為

全部をひっくるめて読み聞かせ。

あまり小さい本は向かない。本が割れてないものがよい。

ページのめくり方は字も絵も隠さないようにめくる。

本はまっすぐに立てる。自分（読み手）も見えるように。読んでもらう人は、本がよく見えるところに座る。

生徒たちは、このような志岐さんの指導をもとに、おはなし会を聞く体験をした。その上で、絵本の読み聞かせに合った絵本を選んで、読み聞かせの練習を始めた。お互いに、読み聞かせをして、アドバイスをし合ったり、学校支援ボランティアの方々や私の指導を受けた。何回か、数人ずつミニ発表会もしながら、絵本の読み聞かせを習得していった。

(2) 1学期の総合的な学習の時間の感想

以下、1学期の総合的な学習の時間の生徒の感想である。

- 読み聞かせの方が来てくれました。読み聞かせの方の説明がとてもわかりやすかったです。ローソクのうたにはあんな深い意味があるなんて知りませんでした。絵本の持ち方の復習では、ほめられたことがとってもうれしかったです。実際に絵本をよんでみようでは、5人の女子ががんばっていました。でも、細かいところが難しそうでした。例えば、絵本の位置や大きくてはっきりとわかりやすい声でなど、難しそうでした。これをふまえて、2学期もがんばりたいです。
- 初めて人に読み聞かせというものをした。たかだか15人くらいの人の前でも緊張したし、指も声も震えた。ポイントを意識しなきゃ！！という気持ちと、読まなきゃ！！という気持ちで混ざって焦ってしまった。そして、やっぱり、人をお話の世界に引き込むということは自分がその世界の住人にならなきゃできないことなんだなあと思った。もっと読みこんで、選んだ本を大切に好きになっていこう！！と思った。
- 「読み聞かせをする」というのは、ただ読むだけだと思っていたけど、実際に練習してみると、とても難しかったです。読むときは、ずっとまっすぐ持っていかなければならないので、きついけど、読み聞かせの楽しさを知ることができました。2学期からは小学校に行ったりするので、夏休みの間に少しでも練習をしたいです！
- 「本」というものの世界に引き込んでくれるストーリーテラーさんたちはすごいなと思いました。また、きく人を話に集中させるために、いろいろな工夫をされていて、すごいなと再度思いました。私

もきく人が楽しんでくれるように、2学期は読み聞かせをがんばろうと思いました。

2学期には、小学校などに訪問するということで生徒たちは、張り切っていた。実際にやってみると、読み聞かせが難しいことに驚いている生徒が多かった。

(3) 2学期の総合的な学習の時間の中で

2学期になると、1学期の総合的な学習の時間を基礎として、いよいよ読み聞かせを本格的に練習し始めた。生徒たちは、1学期に決めていた絵本を練習するうちに、別の絵本が読みたくなったり、自分に別の絵本があると気づいたりして、本を変更した生徒もいた。その際、司書補の先生は、必要な絵本を揃えるために、非常に協力してくださった。

9月は読み聞かせの練習とビデオで読み聞かせの様子を撮影し、自分で自分の様子を点検させた。そうすることで、自分の欠点に自分で気付き、だんだんと上手になっていった。

平成21年9月9日5時間目6時間目（総合的な学習の時間）

⑦絵本の読み聞かせ練習

絵本の読み聞かせ発表練習

グループに分かれて、自分の好きな絵本の読み聞かせの練習。全員の前で、読み聞かせの発表会。

平成21年9月30日3時間目4時間目（総合的な学習の時間）

⑨絵本の読み聞かせ練習ビデオとり生徒自身のビデオを視聴し自己批評

生徒一人一人の読み聞かせの様子をビデオに撮影。

グループに分かれて、自分の絵本の読み聞かせの練習。

生徒一人一人のビデオを一人一人視聴し自己批評。

(4) 2学期の総合的な学習の時間の自己批評と感想

ビデオをパソコン上で見て、自分で自分の読み聞かせを上手にできる工夫をすると、次のようなことを生徒たちは気付いていった。

●良かった点＝本のめくり方と本の立て方

改善をした方が良い点＝話をゆっくりと読む、間をとる

感想＝今日は、パソコンで自分の発表を見ました。良かった点も少しはあったけど、改善すべき点がいくつかありました。幼稚園の

こどもたちが分かりやすいように読みたいと思いました。また、今日は言葉の表現とかにも注目できたので、よかったです。

- 良かった点＝声が大きかった
改善した方が良い点＝本の持ち方・ページのめくり方
感想＝擬音語とかは読む練習をたくさんできたのでよかったです。
自分の読んでいるところパソコンで見て、本の持ち方とかが気になったので、きいている人がみやすいように、工夫していきたいです。
- 良かった点＝ページをめくるときにあまりにもたつかなかったところ
改善した方が良い点＝体から絵本を離す。もう少し声のトーンを上げる。顔、下向き過ぎない。
感想＝自分がやっているときは読むので精一杯だったので、自分がやっているときのビデオを見られて、改善点が明確になったのは大きな収穫となった。小さい子に向けて読むので、もう少し優しい声でやろうと思う。
- 良かった点＝声がまあまあ大きかった。ページをめくるスピード
改善した方が良い点＝語尾がさがって暗くなっていた。体がかぶさっていたから、もう少し絵本と同じ位置に立つ。(前に出過ぎない)。絵本が斜めになっていた。
感想＝自分が読んでいるビデオを見て思っていたより、語尾がさがって暗くなっていたり、もうちょっと全体的に声を明るめにした方がいいなどいろいろなことに気付くことができた。
- 良かった点＝めくり方
改善した方が良い点＝声のトーン
感想＝緊張しました。でも、思った通りにページがめくれたのでよかったです。
- 良かった点＝前より、読む速さがよくなった。
改善した方が良い点＝声が小さい。ページのめくり方があまりできていなかった。
感想＝実際にみんなの前でやってみて、読んでいるとき、何回も止まってしまったところがあったので、まだまだ練習が足りないなあと気付きました。ページのめくり方では、あまりできていなくて、本を上手く支えられていなかったのも、ちゃんとできるようにしたいです。本を読む速さは、前より少し良くなったので、声の大きさをもっと良くなるようにがんばっていきたいです。
- 良かった点＝ページのめくり方がよかった
改善した方が良い点＝声が小さかった。かんだところが多かった。

感想＝練習のときよりもページがきれいにめくれてよかったけど、声小さくなったので、もっと大きく言えるようにしたいです。録画したのを見ると、読んでいる時の表情がものすごく暗かったので、もっと楽しく読みたいです。あと、本を読むときの速さが速いところと遅いところがあったので、あんまり速くしないようにしたいです。

他人から、指摘されると直りにくい自分の欠点も、自分で自分の姿をパソコン上で客観的に見ることで、改善がはやかった。小学校へ訪問するという動機づけも功を奏したようだった。生徒たちの中に、やる気が高まっていくなのが感じられた。

(5) 小学校訪問おはなし会

1月25日の午後に、京陵中学校校区の高平台小学校に、おはなし会に行くことが決定した。校区とはいえ、少し遠いため、バスを使って行った。当日、1人欠席者が出たため、執筆者も読み聞かせを行った。次に載せるのが、準備と小学校訪問のプログラムである。

平成21年11月17日1時間目 (総合的な学習の時間)

⑪小学校へ行く準備

16人を絵本の長さ・内容によって4チームに編成
チーム内で順番を決定→プログラムにそって、リハーサル

平成21年11月25日5時間目6時間目 (総合的な学習の時間)

⑪高平台小学校おはなし会プログラム

- 1 全員教室の前に並んで挨拶する。
気を付け、礼「こんにちは」
- 2 自己紹介する。
みなさん、こんにちは。私たちは京陵中学校3年生です。
私がリーダーの()です。()です。()です。()です。
- 3 リーダーが趣旨説明する。
私たちは総合的な学習の時間に、絵本の読み聞かせを通じて、地元の子どもたちとの交流を深めようというコースで学習しています。今まで絵本の読み聞かせの練習をしてきました。今日は高平台小学校の3年()組のみなさんに私たち()グループが読み聞かせを聞いてもらえることになってうれしく思っています。まだ練習不足のところもありますが、一生懸命読みますので、どうか聞いてください。では、まず、聞きやすいように移動してもらいます。机は引いて、前の方の見やすいところに座ってください。

- 4 場の設定をする。(黒板にプログラムとろうそくのうたを書く。机を引く手伝いをする。)

寒いときは子どもたちは椅子に腰掛け、立って読み聞かせをする。
それほど寒くないときは子どもたちはフロアーに座り、椅子に座って読み聞かせをする。

- 5 おはなし会を始める。

まず、黒板に書いたろうそくのうたを私たちが1回歌います。そのあといっしょに歌ってください。

<ろうそくのうた>

ろうそく パツ もひとつ パツ

これからはじまるおはなしかい

ろうそく ふう (息を吸い込んではいて、吹き消す)

もひとつ ふう (息を吸い込んではいて、吹き消す)

そらにはきらきらおほしさま

(手をひらひらさせながら、上から下へ腕を回す)

こんどはちいさいろうそくです (小指で)

おはなしのくにへいくぞというおまじないをかけます

(小さい声が効果的)

ろうそく パツ もひとつ パツ

これからはじまるおはなしかい

ろうそく ふう (息を吸い込んではいて、吹き消す)

もひとつ ふう (息を吸い込んではいて、吹き消す)

そらにはきらきらおほしさま

(手をひらひらさせながら、上から下へ腕を回す)

はい、はじまりました

- 6 ひとりひとり絵本を読み聞かせる。

声が小さいと子どもたちにおはなしが伝わらないので、大きな声で絵本を立てて。

3年1組

- | | |
|--------------------|------------|
| ○ろうそくのうた | <指遊び> |
| ○おおきくなるっていうことは | <絵本の読み聞かせ> |
| ○ぐりとぐら | <絵本の読み聞かせ> |
| ○どろんこハリー | <絵本の読み聞かせ> |
| ○どんなにきみがすきだかあててごらん | <絵本の読み聞かせ> |

3年2組

- | | |
|---------------|------------|
| ○ろうろくのうた | <指遊び> |
| ○すてきな三にんぐみ | <絵本の読み聞かせ> |
| ○こねこのチョコレート | <絵本の読み聞かせ> |
| ○おやすみなさいこっこさん | <絵本の読み聞かせ> |
| ○ぐりとぐらのおおそうじ | <絵本の読み聞かせ> |

3年3組

- | | |
|----------------|------------|
| ○ろうそくのうた | <指遊び> |
| ○どうながのプレツェル | <絵本の読み聞かせ> |
| ○どろだんご | <絵本の読み聞かせ> |
| ○三びきのやぎのがらがらどん | <絵本の読み聞かせ> |
| ○ちいさなねこ | <絵本の読み聞かせ> |

3年4組

- | | |
|----------------|------------|
| ○ろうそくのうた | <指遊び> |
| ○かいじゅうたちのいるところ | <絵本の読み聞かせ> |
| ○まっくろネリノ | <絵本の読み聞かせ> |
| ○そらまめくんのベッド | <絵本の読み聞かせ> |
| ○おやすみなさいおつきさま | <絵本の読み聞かせ> |

7 机をもとにもどす。

これで私たちのおはなし会は終わりです。楽しめましたか。
では、机をもとのように、いっしょに並べましょう。

8 最後の挨拶

みなさんにいっしょうけんめいきいてくれてありがとう。
気を付け、礼「ありがとうございました」

高平台小学校の校長先生や先生方は温かく迎えてくださった。小学生たちは、一生懸命、おはなし会を聞いてくれた。真剣に、楽しそうにおはなし会を聞く子どもたちの姿に驚いたのは、執筆者だけではなく、生徒たちもそうだった。おはなし会が終わって、帰ろうとする私たちを、小学生たちは、「ばいばーい。お兄ちゃん、おねえちゃん、また来てね。」とずっと手を振って見送ってくれた。玄関を出て、正門を出ても、その声は消えなかった。私たちは、何度も何度も振り返り「ばいばーい。ありがとう。またね。」と手を振った。学校に帰り着くと、図書館の司書補の先生のところへ、絵本を返しに行った。司書補の先生は「よい経験だったようですね。生徒たちがとてもよい表情をしていましたね。よかったですね。」と喜んでくださった。

(6) 小学校訪問おはなし会の感想

以下、小学校訪問おはなし会の生徒たちの感想である。

- 3年生の総合では、西村先生のもので、絵本の読み聞かせをできて、とても良かったです。本の持ち方やろうそくの歌など、志岐さんにもたくさんのお話を教わりました。また、高平台小学校に行くために、色々な人の協力があった事にも感謝したいと思います。本番では、3年生の子供たちの前で発表することに感謝したいと思います。本番では3年生の子供たちの前で発表することにとっても緊張したけれど、やった後では、とてもスッキリした気持ちになりました。今回

の総合では、学んだことがたくさんあったので、とても良かったです。

- 最初は読み方や持ち方など、全くわからないことが多くて、本当に子どもたちの前で読めるか不安だったけど、小学生のみんなは、ちゃんと静かに聞いてくれて、“ろうそくのうた”も楽しく歌えたので、とっても良かったです。また地域の人たちと交流していきたいです。

これらの感想は司書補の先生が、言われたことを証明するように、小学校へ訪問し、読みきかせができたことの満足感にあふれていた。読みきかせを成功させたことの達成感生徒たちに自信をもたらしていた。心がつながっていくということの意義が表れてる感想ばかりだった。

(7) 小学生への手紙

小学校へ読み聞かせのあと、小学生から手紙が届いた。その手紙にまたお礼の手紙を生徒たちは喜んで書いた。表1の⑱の活動である。

- このまえは、私たちの読みきかせをきいてくださってありがとうございました。とてもきんちょうしていたけれど、3年1組のみなさんが楽しそうにきいてくれてすごうれしかったです!!!これでみんなが本をすきになってくれるといいなと思います。みんなもたくさん本をよんで楽しんでくださいね。ほんとうにありがとうございました。
- 今回は、自分たちのために、わざわざお返事ありがとうございました。3組のみなさんのところへ読み聞かせに行ったとき、みなさん静かに聞いてくれたので、とても助かりました。みなさんが書いてくれた手紙を読んで、今まで頑張ってきてよかったなあ・・・と思うことができました。本当にありがとうございました。最後になりましたが、自分たちが読み聞かせをさせていただく時間をくださった先生、ありがとうございました。

これら手紙から、小学校へ行けて、読み聞かせができた生徒たちの喜びが伝わってきた。そして、小学生との心の交流が、生徒たちの感謝の言葉となって、あふれ出ていることがわかった。

(8) 学校支援ボランティアへの手紙

2学期の最後に、学校支援ボランティアの志岐さんへお礼の手紙を書いた。表1の⑲の活動である。

- 最初、読み聞かせと聞いて「子どもっぼいな」とか、「カッコワルいな」

とっていました。練習を続けていくうちに読み聞かせの奥深さを知りました。ロウソクのうたは落ち着いて読み聞かせが聞けるようにするためのものだったとは知りませんでした。何気なく歌っていたロウソクのうたはすごい力を持っているのだとわかりました。読み聞かせは読みと聞かせにわかれて、読む方と聞く方があって読み聞かせは成立するのだなと思いました。手で持つ時の持ち方がすごく難しく、最初は慣れませんでした。でも、志岐さんに教えてもらい、うまく持てるようになりました。まだ、若干、本が傾いていて下手です。この前は小学校に行きました。高平台小学校に行きました。僕の母校です。今回は小学3年生に読み聞かせをしてきました。小学生はすごくかわいかったです。そして、僕はガチガチに緊張しました。ですが、Cさんがアドリブをしてくれて助かりました。リーダーの僕よりリーダーっぽくてたよりにになりました。僕は4番目でガチガチに緊張してしまいました。読み聞かせの途中、目がにじんできたりしました。でも、最後まで読み聞かせできました。終わったあとに一人の男の子が「すてきな三人組はいい三人組だなと思いました」と感想を言ってくれました。また、このような機会でお会いできることを楽しみにしています。

- 今回の総合学習では、ボランティアで志岐先生に来ていただいて、本当に助かりました。本を読むときに、「大きくて聞きやすい声で読む」という点に関しては、自分で気づいて工夫できました。しかし、本の持ち方や、聞く側への配慮に関しては、小さいときには自分も聞く立場であったというのに、全然分かりませんでした。そういった点を、時には厳しく教えていただいたおかげで、私たちは今回の高平台小への読み聞かせを成功させることができました。小学生の子たちも、しっかりと話を聞いてくれて、読み聞かせをすることの楽しさも、はっきりとわかりました。ろうそくのうたは、初めはとても恥ずかしかったけれど、だんだん楽しくなってきました。これから、もし、小さな子どもに読み聞かせをする機会があったら、今回の総合学習での経験を生かして、子どもたちを楽しませることができたらと思います。また、機会があったら、ぜひ京陵中に来てください。私は本にはあまり興味がありませんでしたが、今回のことを通して、興味が出てきました。だから、これからは、もっと本を読む機会を増やしていきたいと思います。ありがとうございます。
- わざわざ京陵中学校に来てくださってありがとうございました。とても楽しかったです。志岐さんの絵本の読み聞かせは上手くて尊敬しています。絵本は好きなのでこれからもどんどん読もうと思います。

す。私は絵本の読み聞かせのときの持ち方や立ち方を初めて知りました。初めは難しくてわからなかったりしたけれど、友だちどうしでや志岐さんのアドバイスでわかるようになりました。本当にありがとうございます。今回の総合の時間で学んだことは読み聞かせをするときには読ませる人の身になってどうしたら上手く伝わるのかを考えなければ楽しんでもらえないということです。それは絵本の読み聞かせだけではなく、人間関係でもそうだと思います。絵本でこんなことが学べるとは思っていませんでした。たくさんのことを学べたと思っています。短い間でしたが、ありがとうございます。

このような手紙を読んでもみると、読み聞かせを通じて、人と人がコミュニケーションをするには、何が大切か、生徒たちが気付いていったことがわかる。読んで聞かせるという一方的な流れではなく、聞いてくれる人がいるから、読んで聞かせられるという相互交流の大切さである。互いの心の交流は、生徒たちの豊かな心を伸ばしていることがわかる言葉が続いていた。

第3章 仮説の検証

1 おはなし会の感想から

表1の⑰の活動、国語おはなし会で学校支援ボランティアと生徒が一緒に行ったおはなし会の感想を以下に載せる。

- みんなで静かに話を聞いたので、ちゃんと話の内容を感じとれました。志岐さんの読み聞かせはとても上手でAさんとBさんも上手でした。おはなし会は、私にとって久しぶりなので幼少に戻って穏やかな気持ちになりました。読むよりも読んでもらった方が話の内容に引き込まれる感じがしました。心が落ち着く機会ができて良かったし、またしたいです。また、Aさんたちのように私も読み聞かせを試みたいです。そして、小さい妹に家でよみかせをしてあげたいです。
- わたしが1番おどろいたことは、熊本弁で話すお話があるということでした。私は初めて聞きました。でも、1番いい話し方だなと思いました。最初にしたローソクのお話は小さい頃聞いたことがあったので少しなつかしかったです。とても良い時間だったと思います。小さい頃に戻れた気がしました。私も次は読むほうをやってみようと思います。
- 今日のおはなし会はとってもたのしかったです。志岐さんはあんなに長い話をよく全部おぼえてて、とてもすごいなって思いました。

私も絵本を読んで、あまり上手に読んでいなかったのですが、もう少し練習して上手になりたいです。

- 今回のおはなし会は、志岐さんの話から始まりました。志岐さんは、たくさんのお話を覚えていて、改めてスゴいなあと思いました。途中で私の絵本の読み聞かせがありました。クラスのみんなの前での読み聞かせはとても緊張しました。でも、やっているうちに、だんだんと緊張がほぐれてきたのでよかったです。志岐さんに比べると、天と地の差があるかもしれないけれど、クラスの人、「上手だった」と言ってくれたので、とてもうれしかったです。よい経験をさせてもらったと思います。

これらの感想から、学校支援ボランティアだけでなく、クラスメートが読み聞かせを行い、それを聞くと自分も妹に読んであげたいという気持ちがおきることがわかった。そして、現場にいた私は学級内に温かい雰囲気を感じるのを感じることができた。

2 学校支援ボランティアの方や小学生へのお礼の手紙から

次に、表1の⑱の生徒たちが書いた小学生へのお礼の手紙を載せた。

- こんにちは。一番きんちょうしていた男の子です。僕が三年生のころみんなみたいにいい子ではありませんでした。手紙もありがとうございました。絵を書いてくれたり、「三人組おもしろかった」とか、いろいろ書いてくれてすごく感動しました。僕の友だちが「この子絵うまい」とか「ピカチュウオレよりうまい」っていっていましたよ。
- 3年4組のみなさん感想ありがとうございます。11月25日みんなに絵本の読み聞かせができて、本当に楽しかったです。私は「空まめくんのベッド」を読みました。声が大きかったや、おもしろかったなどたくさん書いてあり、とてもうれしくおもっています。すごーくうれしかったです。私達は、中学3年生の15歳です。また高平台小学校に、遊びに行きたいなー。3学期、いけるといいなーとおもっています。そのときは、みんなとドッジボールや、また読み聞かせなどしたいです。もうすぐ4年生ですね！！みんなもおべんきょう、がんばってください。私達もがんばります。へたな司会でしたが、ろうそくの歌、一緒に歌ってくれてありがとう！私達のこと、忘れないでねー。

ここから、小学生と中学生の心の交流を読み取ることができる。それは、生徒たちの心に喜びをもたらし、感動を呼び起こすものだったことがわか

る。次に、表1の⑱の学校支援ボランティアに書いた最後の手紙を載せる。

●志岐さん、今まで忙しい中、わざわざ学校に来てくださり、本当にありがとうございました。志岐さんの読み聞かせを初めて聞いたときは、自分が同じことをするなんて、想像もできませんでした。志岐さんの読み聞かせは、中学3年生の私でさえ、本の世界に入ってしまったように感じます。そして、私達にたくさんのアドバイスをくださったことにとっても感謝しています。おかげでどうすれば相手に分かりやすいかなど、自分の中で想像をふくらますこともできました。その点において、今回の総合学習は、志岐さんなしには進まなかったと思います。高平台小学校での読み聞かせでは、とても緊張したけれど、やり終わった後には、感じたことのない喜びがありました。多分、これからの人生で読み聞かせをすることは、数回になるかもしれませんが、もし、読み聞かせをするならば、志岐さんのアドバイスを思い出してやりたいと思います。長い間、本当にありがとうございました。くれぐれもお体にはお気をつけ下さい。

●総合的な学習の時間にたくさんのご指導をしていただき、ありがとうございました。何事にも笑顔でアドバイスをしてくださるので、ポイントをすぐ吸収することができました。おかげで小学校での読み聞かせで成果を出せたと思います。

小学校で読み聞かせをしたことを、強烈におぼえています。小学生の綺麗な目、生き生きした表情……。物語に引き込まれていくその姿に、深い感動を覚えると同時に、志岐さんが読み聞かせを続けている理由が分かったような気がしました。

「ろうそくのうた」も、はじめは“小学生、やってくれるかなあ……”と不安に思っていた部分がありました。でも、これは杞憂に過ぎないことがすぐに分かりました。「ろうそくのうた」はとても効果的だと思います！もし、自分が将来読み聞かせをする機会があれば、是非（……というか絶対！）やろうと思います。

読み聞かせを通して、色々なことに気づかされました。簡単な言葉の集まっている絵本だからこそ、たくさんの温もりを感じられるのだと思います。これからもどうか、読み聞かせを続けてください！！！！

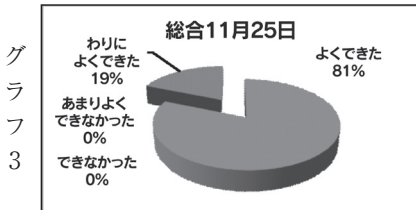
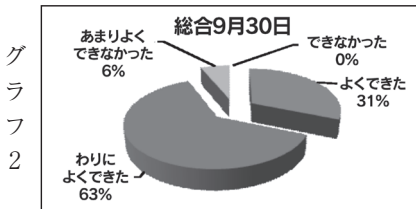
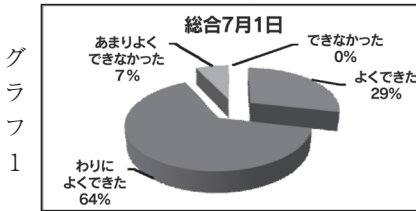
本当にありがとうございました。

ここに表れているのも、心の交流とそれが呼び起こす感動である。このような手紙を書く生徒たちの心こそ「豊か」と言えるのではなからうか。生徒たちが本来持っている「豊かな心」が素直に、伸びていく様子が表れ

ている。

3 総合的な学習の時間の自己評価から

次にあげたグラフ1は7月16日の1学期最後の総合的な学習の時間の自己評価である。次のグラフ2は9月30日の自分のビデオを見て、自分の読み聞かせを振り返る時間の自己評価である。その次のグラフ3は小学校におはなし会に行ったときの自己評価である。



グラフ1とグラフ2はほとんど同じ結果である。しかし、グラフ3では「よくできた」という自己評価をした生徒が8割を超え、「わりによくできた」と合わせると、100%となった。絵本の言葉は、易しいので、音読することはそれほど難しいことではない。しかし、練習すればするほど、絵本を本当に読むことが難しくなっていく様子を目の当たりにした。

これでは、小学校に行けないと悩む生徒もいたが、当日は本当に心を込めた読みができた。汗を流しながら読む生徒の姿が印象的だった。そして、地域の小学生と交流を深めることが、高い達成感を生徒たちに与えるということがわかった。

小学校訪問をしたあと、司書補の先生が「生徒たちの顔がよかった。輝いていた。」と言われたことと重なる結果となった。「よくできた」だけに注目してみると、グラフ1では、29%、グラフ2では31%、グラフ3では81%となっていることから、達成感は、次のステップへの意欲となり、生徒たちを伸ばしていく原動力となるということがわかる結果となった。

4 仮説の検証

研究の仮説は「学校図書館を活用し、地域との交流を意識した活動を行えば、生徒たちの豊かな心を伸ばすことができる。」であった。前述の「1 おはなし会の感想から」「2 学校支援ボランティアの方や小学生へのお礼の手紙から」「3 総合的な学習の時間の自己評価から」の結果から、仮説は検証することができた。

第4章 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

表1の⑰の生徒と学校支援ボランティアの感想に次のようなものがあった。

- 今日のおはなし会は、とても楽しむことができました。話の中にひきこまれていくような感じがして、自分の目の前で話が進んでいるように思えました。先生の話や読まれた絵本もそうでしたが、友達も絵本をスラスラと読んでいて、すごいと思いました。中学生になってからは、絵本を読む機会もほとんどなくなってしまいましたが、今回のおはなし会で、小さな弟に読んであげたいと思いました。絵本だけでなく、相手の心にきちんと伝わるような話が、できるようになりたいです。

表1の⑱の学校支援ボランティアへの手紙に次のようなものがあった。

- 今まで何回も来ていただきありがとうございます。また、いろいろなことを教えていただいてありがとうございます。

志岐さんは本当に読むのが上手でとてもお手本になりました。本の持ち方も初めは全く分からなくて困っていたけれど、先生に教えていただいたおかげでできるようになりました。人前で話したりするのはあまり得意ではないけれど、小さい子が喜ぶならと思い、がんばることができました。

本番では、小学生がニコニコして聞いてくれたので、不安でいっぱいだったけれど、途中から楽しく読むことができました。私が読んだ本はきっと何回も聞いたことがあってつまらないんじゃないかと思っていたけれど、最後に女の子が「ぐりとぐらがよかったです。」と言ってくれてすごく嬉しかったです。小さい子のパワーってすごいなあと思いました。自分が楽しませてあげたいと思っていたのに、私が小学生に楽しませてもらいました。それにまた行けたらいいなと思ったし、次にもしどこかでそういう機会をいただけたら、もっともっと練習して、たくさんの人を楽しませてあげたいし、本の良さを分かってもらえるといいなと思います。

本当に何度も来てくださりありがとうございました。

ここに表れているのは、「聞くこと」の大切さである。自分が小学生を楽しませてあげようと思っていたのに、自分が小学生に楽しませてもらっていたと気付く。相手の心にきちんと伝わるような話をしたい、ちゃんと聞いてくれてうれしかったと気付く。この体験が生徒にとっても、私にとっても貴重なことであるとわかった。言葉を話し、聞くということが人と人を結びつけ、心を育てる、伸ばすことが実感できた。

これらの気づきは、読み聞かせを通して、小学生との交流、学校支援ボランティアとの交流によってもたらされたのである。その基礎には、司書補の先生と司書教諭の協力体制、学校図書館を活用があったのは、言うまでもない。これからも人の身体から発する言葉の力を信じ、学校図書館を活用するしながら、学校教育に貢献できるように研究を続けたいと思うことができた。

2 今後の課題

本研究の成果と表裏一体であるが、学校支援ボランティアを活用すると教育効果が望めるものの、学校外の地域の方々を学校の中で活用するのは、簡単なことではない。学校という時間的にも、空間的にも制約のある場に、学校外の方を呼ぶことには、労力を要するということがわかった。

また、司書補の先生やまわりの先生方が、協力的で理解があれば、本研究のような活動も可能だが、どんな場合でも、司書補の先生と司書教諭が効果的に協働できるとはかぎらない。小学校への訪問も、高平台小学校の先生方の協力で実現できた。しかし、小学校と中学校の日程の違いや行事等の重なりなどがあった場合は、スケジュールを調整するだけでも大変な労力がある。今回は、お互いの立場と思いを理解し合えたことによって、交流することができたが、熱意が関係者の中になければ、不可能だった。しかし、難しくても小学校との交流だけでなく、保育園、幼稚園、老人ホームなどへの訪問や、地域の方々を招いてのおはなし会など、交流の幅を広める必要を感じる。

さらに、読書センターとしての学校図書館の機能だけでなく、情報・学習センターとしての機能も看過できない。これからの国語科教育、ひいては学校教育を支える大きな土台として、学校図書館を活用する研究も深めていきたい。それは、人の言葉に魂を取り戻すことへの挑戦でもある。

参考文献

- ・文部科学省『中学校学習指導要領』平成20年3月告示
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説国語編（平成20年9月）』一國語編—東洋館出版社平成20年9月25日
- ・熊本県学校図書館協議会『くまもとの学校図書館 Vol. 3』平成17年11月15日
- ・B・K・ウィルソン作小林いづみ訳大杜玲子絵『こねこのチョコレート』こぐま社2004年11月25日
- ・モールス・センダック作神宮輝夫訳『かいじゅうたちのいるところ』富山房1975年12月5日
- ・マーグレット・レイ文H.A.レイ絵渡辺繁男訳『どうながのプレッツェル』福音館書店1978年10月20日
- ・中川たかひろ文村上康成絵『おおきくなるっていうことは』童心社1999年1月25日
- ・田中義行文野坂勇作絵『どろだんご』福音館書店2002年4月10日
- ・ノルウェーの昔話マーシャ・ブラウン絵瀬田貞二訳『三びきのやぎのがらがらどん』福音館書店1965年7月1日
- ・中川季枝子作大村百合子絵『ぐりとぐら』福音館書店1963年12月1日
- ・ジーン・ジオン作マーガレット・プロイ・グレアム絵渡辺繁男訳『どろんこハリー』福音館書店1964年3月15日
- ・トミー・アンゲラー作今井祥智訳『すてきな三にんぐみ』偕成社1969年12月
- ・石井桃子作横内襄絵『ちいさなねこ』福音館書店1963年5月1日
- ・ヘルガ・ガルラー作矢川澄子訳『まっくら ネリノ』偕成社1973年7月1日
- ・サム・マクブラットニイ文アニタ・ジェラーム絵小川仁央訳『どんなにきみがすきだかあててごらん』評論社1995年10月20日
- ・マーガレット・ワイズ・ブラウン作クレメント・ハード絵瀬田貞二訳『おやすみなさい おつきさま』評論社1986年6月20日
- ・中川季枝子作大村百合子絵『ぐりとぐらのおおそうじ』福音館書店2002年2月1日
斎藤隆介文滝平二郎絵『花さき山』岩崎書店1969年12月30日
- ・マーガレット・ワイズ・ブラウン作レナード・ワイズガード絵内田也哉子訳『たいせつなこと』フレーベル館2001年9月
- ・片山健作『おやすみなさい コッコさん』福音館書店1988年1月30日
- ・なかやみわ作『そらまめくんのベッド』福音館書店1999年9月30日